

令和5年度事業報告について

新型コロナウイルス感染症の取扱いが5類に移行され、旅行者数及び宿泊者数の増加など経済活動が回復基調にある中、当機構では中期経営計画及びDMO形成計画に基づき、県内自治体や関係団体・事業者の皆様と連携し各種事業を実施した。

観光振興分野では、本県観光需要の早期回復に向けて、本県ならではのコンテンツを生かした高付加価値商品の創出をはじめ、他産業への波及効果が見込まれるMICE及び教育旅行の誘致活動を実施したほか、台湾・韓国など海外からの観光客誘致に取り組んだ。

青森県観光物産館については、展望台・3Dシアター・セレクトショップ等の館内設備及び主催・連携イベントを通じて、本県観光・物産の魅力を発信した。

国際交流分野では、県民への海外文化等の理解を促すための交流事業を実施したほか、増加傾向にある県内在住の外国人に向けた生活等情報の提供や相談対応を行った。

収益事業については、貸会議室や駐車場、旅行商品販売を通じた収益向上に努めた。光熱水費などの価格上昇傾向が続いていることから、催事スペースの料金改定や運営経費の節減を行うなど、効率的な経営に努めた。

〔公益目的事業〕

1 観光振興・青森県観光物産館管理運営事業

(1) 開発推進事業

① 観光開発推進事業

観光客の滞在時間及び観光消費の拡大を図るため、県内のDMOと連携して、アートをテーマにした観光コンテンツの開発を行ったほか、宿泊施設と連携し、ねぶたをテーマにした体験プログラムの開発を行った。

◆コンテンツ開発・商品造成件数 31件

② 宿泊施設魅力向上対策事業

観光客の宿泊利用促進を図るため、アンケートやヒアリングを通して、宿泊施設が抱える課題を把握するとともに、その課題解決に向けた取組方法の検討および次年度以降の事業方針を策定した。

③ 教育旅行誘致事業

本県への教育旅行誘致を促進するため、関係団体・旅行会社等との連携を図りながら、以下の各種事業を実施した。

ア 教育旅行誘致促進連絡会議の開催

教育旅行誘致に係る取組についての情報共有及び課題整理・解決に向けた検討を行うため、県内関係者による連絡会議を開催した。

- ◆時 期 令和5年5月30日
- ◆場 所 青森市(青森県観光物産館アスパム)
- ◆内 容 令和4年度活動報告、令和5年度事業計画 等

イ 教育旅行促進強化事業(県委託事業)

(ア) 道央地区教育旅行エージェント・学校キャラバン

- ◆時 期 令和5年8月28日～31日
- ◆訪 問 先 札幌市・苫小牧市の旅行エージェント10社
札幌市教育委員会及び学校80校

(イ) 道南地区教育旅行エージェントセールス

- ◆時 期 令和5年10月19日
- ◆訪 問 先 函館市及び北斗市旅行エージェント等8社

(ウ) 首都圏教育旅行エージェントキャラバン

- ◆時 期 令和6年2月7日～9日
- ◆訪 問 先 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の旅​​行エージェント20社

(エ) 教育関係団体等の発表会・セミナー等における情報提供

㊦全国修学旅行研究大会/主催：(公財)全国修学旅行研究大会

- ◆時 期 令和5年7月25日
- ◆場 所 東京都

㊧教育旅行シンポジウム/主催：(公財)日本修学旅行協会

- ◆時 期 令和5年8月18日
- ◆場 所 東京都

㊨東北教育旅行セミナー/主催：(一社)東北観光推進機構

- ◆時 期 令和5年7月～9月
- ◆場 所 札幌市、東京都、名古屋市、大阪市、福岡市(各1回)

(オ) 教育旅行誘致資料等の制作

㊩あおり教育旅行ガイドブックの作成・配布

- ◆部 数 1,000部

㊪青森県教育旅行ホームページの更新

(カ) 教育旅行受入状況調査の実施

- ◆時 期 令和6年1月～3月
- ◆対 象 県内ホテル、旅館等
- ◆内 容 県内宿泊施設における教育旅行の宿泊状況

④ コンベンション誘致事業

観光等産業振興への波及効果が見込まれるコンベンションを誘致するため、本県開催の動機付けとなるコンベンション開催費助成事業を実施するとともに、県内外の関係団体、企業等への誘致活動を展開した。

ア コンベンション誘致促進連絡会議の開催

コンベンション誘致に係る取組についての情報共有及び課題整理・解決に向けた検討を行うため、関係者による連絡会議を開催した。

- ◆時 期 令和5年5月30日
- ◆場 所 青森市(青森県観光物産館アスパム)
- ◆内 容 令和4年度活動報告、令和5年度事業計画 等

イ あおもり MICE 誘致活動事業(県補助事業)

(ア) コンベンション誘致に向けた大学・団体等訪問

県内大学や青森県での開催可能性があるコンベンション主催団体及び旅行エージェント等を訪問し、本県支援制度等について説明したほか、学会等の誘致促進や本県でのコンベンション開催について依頼を行った。

- ◆時 期 令和5年11月16日、令和6年2月16日
- ◆場 所 青森県内、東京都内
- ◆件 数 県内大学2件・首都圏 MICE 主催者等4件

(イ) コンベンション誘致のための支援策(ユニークベニュー・特典等)

コンベンション誘致を促進するため、本県でのコンベンション開催にあわせ特別な企画対応を行う会場、いわゆる「ユニークベニュー」を関係機関と共に創出した。また、青森県でのコンベンション開催を促進するための支援策を造成・整理し、情報発信を行った。

- ◆内 容 ユニークベニュー・特典等 13件
- ◆発信方法 県観光情報サイト掲載、観光庁ホームページ掲載、日本コンベンション都市ガイド掲載、主催団体等への説明・配布

(ウ) 国際 MICE エキスポ(IME2024)への出展

県内各観光コンベンション協会と共同で出展し、本県コンベンション関係支援制度をPRするとともに、本県での開催可能性がある団体等と商談を行った。

- ◆時 期 令和6年2月15日
- ◆場 所 東京国際フォーラム
- ◆商 談 11団体



ウ 大規模 MICE 開催費助成事業（県補助事業）

本県でのコンベンションの開催を促進するため、県外からの延宿泊者数 100 名以上のコンベンション主催者に対し、開催経費の一部を助成した。

- ◆件 数 16 件
- ◆金 額 9,000 千円
- ◆県外からの延べ宿泊者数：7,678 人泊

(2) 情報発信事業

① 観光キャンペーン推進事業

本県への一層の誘客を促進するため、JR 東日本や青森県等とタイアップし、首都圏等における各種観光イベントや観光物産展等に参画するとともに、マスコットキャラクター「いくべえ」を活用しながら観光 PR 等を実施した。

また、観光ガイドブック等の作成やリゾート列車の運行に係る協議会への参画等を通じて、本県の観光資源の魅力を全国に PR した。

ア 観光イベントガイドブックの作成

本県への観光客誘致を図るため、自然や食、温泉、祭り等、旬の観光情報を紹介する「あおもり紀行イベントガイドブック」を作成し、関係箇所への配布・PR を行った。

- ◆時 期 2023 夏・秋号 令和 5 年 5 月
2024 冬・春号 令和 5 年 10 月
- ◆部 数 各 13 万部+電子書籍版
- ◆配布場所 県内外の交通機関、旅行会社、
観光事業者 等



イ 観光イベント等への参画

本県への誘客を促進するため、県外で実施される観光展などの各種イベントに参加し、観光コーナーの設置やステージでの PR を行った。

(ア) ツーリズム EXPO ジャパン

- ◆時 期 令和 5 年 10 月 26 日～29 日
- ◆場 所 インテックス大阪

(イ) ハイウェイフェスタとうほく 2023

- ◆時 期 令和 5 年 9 月 16 日～17 日
- ◆場 所 仙台市勾当台公園

(ウ) 中京圏における青森県観光プロモーション

- ◆時 期 令和 5 年 11 月 1 日
- ◆場 所 中部電力 MIRAI タワー



(エ) 北海道新幹線利用促進プロモーション

- ◆時 期 令和5年12月9日
- ◆場 所 函館赤レンガ倉庫群

(オ) 大宮駅青森産直市

- ◆時 期 令和6年3月2日～3日
- ◆場 所 JR大宮駅



ウ 観光セミナーの開催

首都圏からの誘客を促進するため、県と共同で旅行エージェント等を対象とした観光セミナーを開催し、本県観光のPR及び商談会を実施した。

- ◆時 期 令和5年11月1日
- ◆場 所 ホテルメトロポリタン



エ リゾート列車の運行にかかる協議会への参画

「リゾートしらかみ」が運行されているJR五能線沿線及び陸奥湾沿線の各協議会に参画し、沿線市町村の観光情報を掲載したパンフレット等の作成を行った。

オ 広告宣伝の展開等

各種新聞・雑誌等において本県の観光資源の魅力を紹介する広告宣伝を展開するとともに、マスコミ等の県内取材に対し積極的に協力した。

② 県外における誘客促進プロモーション事業（県委託事業）

九州圏における本県の認知度向上及び同圏域からの誘客促進を図るため、「博多どんたく港まつり」において、本県観光をPRした。

- ◆時 期 令和5年5月2日～4日
- ◆場 所 福岡市内



③ 観光情報ネットワークシステム運営事業（県委託事業）

本県を訪れる観光客等が、観光情報をインターネットにより入手できるよう県・市町村等と連携し、青森県観光情報サイト「Amazing AOMORI」の運営・管理を行った。

- ◆閲覧数 494万ページビュー
(令和5年4月～令和6年3月)



④ 兵庫県との航空路線を利用した相互送客連携
(県委託事業)

兵庫県域をエリアとする地域連携 DMO である「ひょうご観光本部」と連携し、ホームページを活用したアンバサダークラブ会員向けのキャンペーン活動等を行った。



⑤ 世界遺産活用観光プロモーション事業 (県委託事業)

ア 青森県観光 PR キャラバン

JR 東日本管内の駅において、世界遺産をはじめとした本県観光の PR を実施した。

◆時 期 令和 5 年 6 月 16 日～26 日

◆場 所 JR 東日本の首都圏各駅 (池袋・品川・柏・千葉・船橋・大宮・八王子・立川・横浜)



イ JR 主要駅内観光物産フェア等における PR

JR 東日本主催の JR 上野駅における物産展「あomorい産直市」と連携し、青森県観光の PR を実施した。

◆時 期 令和 5 年 5 月 22 日～28 日

◆場 所 JR 上野駅



(3) インバウンド対策事業

台湾・韓国等の東アジアからの誘致活動を展開したほか、受入対応力の強化により、来訪者の満足度向上及び観光消費の拡大に努めた。

① あomorいグローバルラウンジ運営事業

アスパム 2 階カウンターにおいて、主にクルーズ船のお客様への観光案内を行うとともに、事務局において SNS を活用した情報発信等を行った。

ア 多言語による県内全般の観光案内

イ SNS を活用した情報発信

ウ 多言語による観光 PR パネル展示

② 国際観光推進連絡会議の開催

インバウンド誘致など国際観光の推進に係る取組について、情報共有を図るとともに、課題整理・解決に向けた検討を行うため、関係者による連絡会議を開催した。

◆時 期 令和 5 年 5 月 30 日

◆場 所 青森市（青森県観光物産館アスパム）

◆内 容 令和 4 年度活動報告、令和 5 年度事業計画 等

③ 韓国誘客対策強化事業（県委託事業）

青森・ソウル線を利用する韓国からの観光客誘致を促進するため、大韓航空、韓国旅行エージェント等と連携して誘客宣伝事業等を実施した。

ア 韓国旅行エージェントファムツアー

（ア）旅行エージェントファムツアー①

◆時 期 令和 5 年 9 月 1 日～4 日

◆場 所 津軽高原ゴルフ場、津軽カントリークラブほか県内 9 か所

◆参 加 者 韓国旅行エージェント（ゴルフ関係）3 名

（イ）旅行エージェントファムツアー②

◆時 期 令和 6 年 3 月 7 日～9 日

◆場 所 酸ヶ湯温泉、十和田市現代美術館ほか県内 14 か所

◆参 加 者 航空会社 1 名、韓国旅行エージェント 4 名



イ 韓国メディア招請

◆時 期 令和 6 年 3 月 20 日

◆場 所 弘前れんが倉庫美術館、八食センターほか県内 16 か所

◆参 加 者 韓国新聞社 2 名



ウ 韓国におけるイベント（日韓交流おまつり）出展

◆時 期 令和5年10月22日

◆場 所 COEX 展示場（ソウル市）



エ 新規旅行商品等造成広告支援

（ア）韓国からの誘客拡大を図るため、青森への旅行商品の販売促進に係る経費の一部を助成した。

◆支援商品 直行便の往復利用による韓国発青森旅行商品

◆支援先 韓国旅行エージェント 延べ9社

（イ）韓国人観光客の誘客拡大を目的として、青森・ソウル線直行便を利用した送客プロモーションに係る一部を助成した。

◆支援先 大韓航空

オ 済州交流推進ミッション団参加

大韓民国済州特別自治道との交流事業の再開・推進のため、青森県、青森県議会、民間団体等によるミッション団へ参加した。

◆時 期 令和6年1月9日～12日



④ 「北東北三県・北海道ソウル事務所」運営事業（県委託事業）

韓国からの観光客誘致を推進するため開設した「北東北三県・北海道ソウル事務所」の運営に参画し、商談会等の各種事業を実施した。

ア 北東北三県・北海道ソウル事務所の概要

- ・ 設置場所 大韓民国ソウル特別市中区南大門路 韓進ビル本館 23 階
- ・ 運営主体 北東北三県・北海道ソウル事務所運営協議会
- ・ 構 成 員 北海道、青森県、岩手県、秋田県、（一社）北海道貿易物産振興会、（公社）青森県観光国際交流機構、（公財）岩手県観光協会、（一社）秋田県観光連盟

イ 事業内容

(ア) ホームページ (<http://www.beautifuljapan.or.kr>) 運営

4 道県及びソウル事務所の認知度向上を図るため、事務所ウェブサイト等を通じて随時観光情報を更新するなどし、魅力的な情報発信とアクセス件数の拡大に努めた。

(イ) 第 10 回日韓フォトコンテスト後援

在大韓民国日本大使館広報文化院が主催する「日韓フォトコンテスト」へ参画し、「青森県賞」を設けるなど、本県観光情報の発信を行った。

◆応募期間 令和 5 年 7 月 19 日～9 月 17 日

◆表彰式 令和 5 年 12 月 9 日

(ウ) 北東北三県・北海道 韓国合同観光商談会 2023

◆時 期 令和 5 年 9 月 11 日

◆場 所 ザ・プラザホテルソウル ダイヤモンドホール

◆参加者 青森県側 6 団体（オンライン参加）



(エ) 韓国バイヤー招請

◆時 期 令和 6 年 2 月 15 日～17 日

◆場 所 上北農産加工株式会社、JA アオレンほか県内 8 か所

◆参加者 食品輸入業者 2 名



⑤ 台湾観光客誘致拡大事業（県委託事業）

青森・台北線を利用する台湾からの観光客誘致を促進するため、エバー航空、台湾旅行エージェント等と連携して誘客宣伝事業等を実施した。

ア 台湾からの誘客に向けたノベルティグッズ等手配業務

台湾市場における本県の認知度向上と誘客拡大を目的に、台湾現地イベント等で活用するノベルティグッズ等を手配した。

イ 台湾旅行会社向け青森県内宿泊旅行商品造成プロモーション事業実施業務

台湾人観光客の誘客を目的として、エバー航空による本県への直行便利用の旅行商品を造成した台湾旅行会社に対し、広告支援を実施した。

ウ 青森空港国際直行便出迎え支援業務

令和6年1月から2月にかけて運航した台湾エバー航空冬季チャーター便及び大韓航空国際定期便の青森空港到着時の出迎え対応を行った。



(4) 受入体制整備事業

① マーケティング推進事業

観光産業の振興に係る各業務について、効率的な実施及び最大限の効果を得るため、実施内容の効果検証や改善に向けた取組の検討を行った。

◆DMO 目標設定及び達成状況

	目標設定 (KPI) 項目	単位	2022 年 目標値	2022 年 実績値
ア	旅行消費額	億円	1,977	1,495
イ	延べ宿泊者数	万人泊	537	408
ウ	来訪者満足度	%	100	98.5
エ	リピーター率	%	78.8	61.1

② 「もてなしの心」運動推進事業

ア クリーン大作戦

「第29回青森県春のクリーン大作戦」を「小さな親切」運動青森県本部と共催し、県内各地の環境美化活動を行った。

◆時期 令和5年4月22日

◆場所 県内各地



イ 観光ガイド推進連絡会議の開催

観光ガイドの推進に係る取組について情報共有を図るとともに、課題整理・解決に向けた検討を行うため、観光ガイド推進連絡会議を開催した。

- ◆時 期 令和5年5月10日、12月1日
- ◆場 所 青森市（青森県観光物産館アスパム）

ウ 観光ガイド研修の実施

観光ガイド団体相互の情報交流やガイドのスキルアップを図るため、観光ガイド実務者を対象とした現地研修会を開催した。

- ◆時 期 令和5年7月4日
- ◆場 所 下北半島
- ◆参加者数 20名



③ 観光案内所連携強化事業

ア 青森県内観光案内所連絡会議の開催

県内観光案内所間のネットワーク強化と情報共有を図り、観光客受入体制をより一層充実させることを目的として、観光案内所連絡会議を開催した。

- ◆時 期 令和5年5月12日
- ◆場 所 青森市（青森県観光物産館アスパム）

イ 青森県内観光案内所スタッフ現地研修会の開催

県内観光案内所スタッフのスキルアップと観光案内所間の情報交換や共有を図り、観光客受入体制をより一層充実させることを目的として、観光案内所スタッフ現地研修会を開催した。

- ◆時 期 令和5年11月16日
- ◆場 所 岩手県盛岡市
- ◆参加者数 9名



ウ 東北観光案内所ネットワーク化事業への参画

東北観光案内所ネットワーク化事業へ参画し、観光案内所相互の取組みについて情報共有した。

④ 観光功労者表彰事業

観光振興に向けた意識の高揚や受入体制の整備を図るため、本県の観光振興に顕著な功績が認められる者を令和5年度観光功労者として表彰することを決定した。

ア 個人

該当なし

イ 団体

NPO 法人十和田奥入瀬郷（くに）づくり大学（十和田市）

⑤ 広域観光振興事業

ア 北東北三県観光立県推進協議会の事業への参画

北東北三県観光立県推進協議会に参加し、北東北広域による国内観光の推進を図るとともに、外国人観光客の受入態勢の整備、誘客促進及びPRに努めた。

イ 東北観光推進機構の事業への参画

東北観光推進機構の事業に参画し、広域観光の推進を図った。

⑥ 観光振興事業（県補助事業）

（公社）日本観光振興協会が全国的または重点的に実施する全国広域観光事業に対し、拠出した。

（5）青森県観光物産館観光資源紹介事業

① 青い森ホール 360度 3D デジタル映像シアター情報発信事業

本県の四季と祭りの映像を迫力ある360度スクリーンで上映し、本県の新たな魅力発見や再来訪の「きっかけづくり」等につながる情報発信を行った。

ア 上映時間

10:00~17:15 まで（最終上映 17:00）1 日 15 回上映

イ 映像コンテンツ

（ア）3D コンテンツ

- ・青森祭りの魂（約 7 分）

（イ）2D コンテンツ

- ・ Beautiful Season of Aomori SPRING（約 8 分）
- ・ Beautiful Season of Aomori SUMMER（約 6 分）
- ・ Beautiful Season of Aomori AUTUMN（約 6 分）
- ・ Beautiful Season of Aomori WINTER（約 7 分）
- ・ 青森祭りの魂（約 7 分）

② 季節ごとの館内装飾の実施

エントランスや machicotoba（マチコトバ）入口において、季節に合わせ館内イベントと連携した装飾を行った。



③ ホームページや SNS を活用した情報発信

「アスパムに来て何を買えばいいかわからない」といった声があることから、館内商品をはじめとした青森県産品の認知度向上を図るため、公式ホームページにおすすめのお土産やグルメなどを紹介するブログページ「パム研（アスパム研究部）」を開設したほか、SNS を活用して、machicotoba（マチコトバ）等で開催する「週末マルシェ」や主催のイベント情報を中心に、アスパムの集客につながる情報発信を行った。

【SNS フォロワー数】

Instagram／@aspm_official	12,433 人（10,285 人）	対前年比：120.8%
Facebook／@aspm.aomori	3,080 人（3,007 人）	対前年比：102.4%
Twitter／@aspmkanko	9,227 人（7,518 人）	対前年比：122.7%

※令和 6 年 3 月 31 日時点（カッコ内は令和 5 年 3 月 31 日時点）



Facebook



Instagram



Twitter

④ 13階展望台情報発信事業

13階展望台への誘客と魅力向上を図るため、本県の観光マスコットキャラクター「いくべえ」のフォトスポットやコンシェルジュによるおすすめ情報の掲出など、お客様の満足度向上に努めた。



⑤ 主催イベント展開事業

ア アスパム春まつり

ゴールデンウィーク前半には、総勢 28 台のキッチンカーを集めた「KITCHEN CAR FESTIVAL 2023」、後半には青森県産サーモンをテーマにした「あおりサーモンフェス 2023」を開催し、集客に努めるとともに県産食材のPRを行った。

◆時 期 令和 5 年 4 月 29 日～5 月 7 日 計 9 日間

◆来 場 者 47,500 人



イ アスパム夏祭り

青森県の地場産品を一堂に集めた物産展(31 業者出店)を開催し、夏祭り期間中に本県を訪れる観光客を中心に集客を図った。また、弘前ねぶた・五所川原立佞武多のミニ山車を館内に設置し祭りの PR を行ったほか、2 階 machicotoba (マチコトバ) にカフェ (40 席) を特設し、来館者へのサービス向上に努めた。

◆時 期 令和 5 年 8 月 1 日～7 日 計 7 日間

◆来 場 者 32,921 人



ウ KITCHENCAR FESTIVAL 2023vol.4

キッチンカー43 台を集めた県内最大級のキッチンカーイベントを開催し、バラエティ豊かなグルメを販売した。また、同時開催した「ABA 番組祭」では、ステージイベントなど、来場者が楽しめるアトラクションを実施した。

◆時 期 令和 5 年 8 月 26 日～27 日 計 2 日間

◆来 場 者 29,885 人



エ あおもり肉のフェスティバル 2023

青森県における食肉文化の紹介をしながら商品販売を通じた PR を行った。合わせて、肉料理や棒パンなど 36 店舗による販売するブースを設けるなど会場の盛り上げを図った。

◆時 期 令和 5 年 9 月 30 日～10 月 1 日 計 2 日間

◆来 場 者 12,600 人



オ CHRISTMAS MARKET in アスパム 2023

冬季における本県への誘客を図るため、大型クリスマスツリーの展示をはじめ、ドイツ製のヒュッテやキッチンカーにおいて青森県産食材等を使用した各種料理を販売したほか、アスパムのLEDライトアップや花火の打ち上げ等の企画を実施した。

◆時 期 令和5年12月15日～25日 計11日間

◆来 場 者 61,295人



カ アスパムお正月まつり

帰省や観光で来県するお客様へ向けて、アスパムテナント各店で新春初売り企画を実施したほか、県産品が当たるお楽しみ抽選会を開催した。

◆時 期 令和6年1月1日～3日 計3日間

◆来 場 者 9,429人(抽選会:抽選会利用者1,213人 抽選回数4,036回)



キ アスパム冬まつり

テナント特別企画やスイーツ・グルメの出店等により、来館者へのサービス向上を図った。また、中泊町や青森県東青地域県民局との共催により、物産展等を開催するとともに、輪投げや釣りゲームなど、ファミリーで楽しめるアトラクションを実施した。

◆時 期 令和6年2月3日～4日 計2日間

◆来 場 者 9,892人



⑥ 「machicotoba (マチコトバ)」の運営

コト消費の新たな空間であるアスパム2階 machicotoba (マチコトバ)を中心に、アスパムにおいて、県内クラフト作家や飲食店の紹介・交流の場としてポップアップマーケット「週末マルシェ」を開催し、カフェ・スイーツの出店やハンドメイドクラフトの展示販売を行った。また、7・10月には、週末マルシェの拡大版として、全館で「グランマルシェ」を開催し、マチコトバの認知度向上に努めた。

◆実施回数及び出店者数

週末マルシェ 7回・191店舗

グランマルシェ 2回・177店舗



(6) 青森県地場セレクト運営事業

県内外からの来館者に対し、青森ならではのこだわりやストーリー性のある地場産品を紹介・宣伝し、販路拡大とPRを図るとともに、消費者の反応や改良点を生産者にフィードバックし、今後の商品開発に向けた情報提供を行った。

また、青森県ご当地スタンド「AOMORI スタンド」の正月限定バージョンなど、事

業者と連携しながら新商品を企画販売したほか、あおもり観光マスコットキャラクターいくべえのお誕生日イベントを開催し、プチマルシェやいくべえオリジナルグッズの販売を行うなど、観光 PR を合わせて実施した。



(7) 貸会議室事業

館内の会議室を本県の観光、物産、郷土芸能、産業、文化、食などの振興につながる地域おこし事業の活動の場、若年者の雇用促進のための職業相談や各種セミナー、教育旅行で来館する学校や教育旅行団体の体験学習の会場として貸出しし、本県観光及び産業の振興に寄与した。

(8) テナント事業

青森県の主要な産業の一つであるエネルギー施策 PR の展示・体験施設と雇用促進関連事業であるハローワーク関連施設やジョブカフェあおもり等を入居させ、その活動及びサービスの場を提供することにより、本県の産業の振興を図った。

(9) PR ホール運営事業 [(公財) 青森県市町村振興協会助成事業]

本県の観光と産業の振興を図るため、アスパム 2 階において、青森県内の市町村に関する映像紹介と県内温泉地紹介コーナー、世界遺産白神山地や世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の写真パネルの展示を行い、市町村の情報や文化資源・地場産品等の魅力を PR する市町村ホール等を運営した。

2 国際交流事業

(1) 国際交流・国際協力等推進事業

① 国際交流ラウンジ管理運営事業 (県委託事業)

アスパム 2 階の国際交流ラウンジにおいて、異文化理解に向けた交流イベントの実施や日本語学習教材の閲覧・貸出等を行ったほか、同ラウンジ内にある青森県相談窓口の運営により、県内在住外国人の生活相談等に係る対応を行った。

ア ラウンジ運営

(ア)「おしゃべりサロン」の開催

県内在住の外国人と地元住民がお互いの文化などの理解を深めるイベントである「おしゃべりサロン」を月1回程度定期的を実施した。

- ◆時 期 4月～3月 計10回
- ◆場 所 国際交流ラウンジ
- ◆参加者 県内在住外国人など
延べ30人
- ◆内 容 各種体験（お茶、生け花、押し花、年賀状、書道など）



【生け花体験】

(イ) 国際理解講座の開催

- ◆時 期 令和5年11月17日
- ◆場 所 青森市（青森県観光物産館アスパム）
- ◆参加者 県内在住日本人など 25名
- ◆内 容 インドネシア、ミャンマーの文化や地域特性の紹介など



イ 外国人相談窓口運営

県内在住外国人の日常生活の困り事をスムーズに解決につなげられるよう、「青森県外国人相談窓口」を設置し、民間通訳サービスも活用しながら18種類の多言語での相談に応じる体制で運営した。

また、専門家を集めたワンストップ相談会や県内市町村等と連携した出張相談会を実施したほか、外国人相談対応のスキルアップを目的とした研修を開催した。

(ア) 相談件数 498件（令和4年度 412件）

【参考：令和5年度における相談体制】

言語	曜日	時間
日本語	火～土	10:00～17:00
英語	火～土	10:00～17:00
ベトナム語	火	10:00～17:00
中国語	火～金	10:00～17:00
タガログ語	木～土	10:00～17:00

(イ) ワンストップ相談会の開催

第1回 青森市 令和5年10月15日 相談件数3件

第2回 八戸市 令和5年12月3日 相談件数3件

(ウ) 出張相談会の開催

第1回 三沢市 令和6年2月14日 相談件数1件

(エ) 外国人相談支援スキルアップ研修の開催

◆時 期 令和6年2月21日

◆場 所 青森市（青森県観光物産館アスパム）

- ◆参加者 県内市町村担当者など 56名
- ◆内容 在留資格の基礎知識及び技能実習制度変更に係る説明など

② 民間活動団体助成事業

地域振興に寄与するものと認められる国際活動を行う県内民間団体に対して活動経費を助成した。

- ◆件数 1件
- ◆金額 100,000円

③ 国際交流情報発信事業

情報誌「あおり国際交流つうしん」の発行や機構ホームページ、SNS等により、国際交流等に係る情報発信を行った。

ア あおり国際交流つうしん発行

- ◆時期 6月、10月、12月、3月
- ◆部数 各2,000部
- ◆配布先 機構会員、国際交流団体、市町村 ほか



イ ホームページ等による情報発信

- ◆内容 統計・支援情報の掲載、イベント告知など

④ 国際協力推進事業等

青森県観光物産館アスパム2階国際交流ラウンジにおいて、独立行政法人国際協力機構（JICA 東北）や地元団体との連絡調整等を通して同機構の各種事業の県内受入を図った。

(2) 多文化共生推進事業

① 民間圏域拠点連携推進事業（県委託事業）

県内の外国人住民が日常生活及び社会生活を地域住民とともに円滑に営むことができる環境を整備するため、交流型日本語教室を通じた日本語学習により外国人住民の日本語能力の向上を図った。

ア 日本語教室起点事業

◆交流型日本語教室の開催状況

青森市	15回	学習者 153人	協力者 85人
弘前市	5回	学習者 39人	協力者 49人
三沢市・南部町	1回	学習者 5人	協力者 10人
中泊町	10回	学習者 97人	協力者 23人
オンライン	24回	学習者 120人	協力者 54人
計	55回	学習者 422人	協力者 221人（全て延べ人数）



【南部町】



【中泊町】

② 外国籍児童等学習支援事業

県内に在住する外国籍の児童・生徒等に係る日本語学習支援のため、日本語能力試験等の受験料及び教材の助成を行った。

◆助成実績 受験料助成：2件、16名 教材助成：14件、96冊

③ 日本語学習サポーター等養成事業

外国人等の日本語学習や生活相談等が円滑に行われるよう、学識者や圏域拠点等との連携のもと、サポーター養成講座を行うとともに、サポーターのスキルアップを図る研修会を実施した。

ア 日本語指導サポーター養成講座の開催

青森大学と連携し、日本語指導サポーター養成講座を開催した。一般受講者は青森大学の聴講生として受講可能とした。(8講義 4単位分)

◆登録者 20名(内、聴講生14名)

※日本語指導サポーター：日本語教室等で、外国人住民に対して地域住民と円滑にコミュニケーションができるように日本語の指導やサポートを行う。

イ 青森県日本語指導サポーター登録者向けスキルアップ研修

青森県日本語指導サポーター登録者について、「外国につながる児童・生徒」に係る要支援事例にも対応できる人材を育成するため、人材バンクを設置し、県教育委員会や関係各大学などと共有しその活用を図った。

(ア) スキルアップ講座

◆時期 令和5年12月23日

◆場所 青森市(青森大学)

◆参加者 日本語指導サポーター登録者 34名

◆内容 「どう教える?こどもの日本語」

(イ) スキルアップ講座(公開シンポジウム)

◆時期 令和6年2月17日

◆場所 青森市(青森県観光物産館アスパム)及びオンライン

◆参加者 日本語指導サポーター登録者 42名

◆内 容 「地域に根ざしたグローバル人材の育成」

ウ 日本語パートナー養成講座

「交流型日本語教室を起点としたコミュニケーション支援事業」に置いて活動できる日本語パートナーを養成するため、交流型日本語教室と連携して日本語パートナー養成講座を開催した。

◆開催状況

南部町 令和5年8月 全2回講座 参加者8名

弘前市 令和6年2月 全2回講座 参加者16名

青森市 令和6年3月 全2回講座 参加者10名

※日本語パートナー：日本語を母語（第一言語）としない外国人住民と日本語で対話による交流を行う。

④ 災害・緊急時の滞在外国人支援事業

大学や関係機関と連携し、災害・緊急時における滞在外国人への適切な情報発信と支援体制づくりを行うため、青森県と今後の連携の方向性について協議を行うとともに、引き続き市町村と連携しつつ、関係する研修の参加・実施を行った。

ア 外部主催研修会への参加

◆（一財）自治体国際化協会（クレア）主催研修会 9月 延べ2名

◆全国市町村国際化研修所（JIAM）主催の研修会 8～9月 延べ2名

イ 当機構主催の研修会

◆時 期 令和5年9月28日

◆場 所 青森市（青森県観光物産館アスパム）

◆参 加 者 県内市町村の災害及び国際交流担当者 24名

◆内 容 災害時における外国人支援のための研修会



【研修会】



【演習】

(3) 地域国際化推進事業

① 国際人財づくりと人財ネットワーク化事業

県内の大学等と連携し、青森県の国際化に寄与する人財づくりや発掘を行うとともに、ボランティア登録や紹介等を行う人財ネットワークづくりを推進するため、県内在住の留学生の交流支援、通訳やホームステイ等のボランティア登録・派遣、県内在住の外国人等のネットワークを通じた活動を行った。

◆国際交流サポーターの活動件数 10件

② 姉妹都市交流その他民間海外交流推進事業

青森県の姉妹都市等に係る交流を推進するとともに、経済交流や海外誘客に向けた県内民間団体の取組みに対して交流先の紹介、交流ノウハウの提供等の支援を行った。

〔収益事業〕

1 青森県観光物産館イベントスペース・貸会議室事業

会議室をはじめ、大型客船入港時のインバウンド向け臨時出店など、各種スペースの貸出しにより収入の確保に努めたほか、催事スペースについては、管理経費等の高騰を踏まえ、令和5年4月1日より料金改定を行いアスパムホームページ等で周知した。

また、請求書等については、令和5年10月1日から始まったインボイス制度に対応した内容に変更した。

なお、催事スペース等利用拡大のため、令和6年2月に市内広告代理店等17か所へ訪問による営業活動を行った。

2 青森県観光物産館駐車場管理等運営事業

一般駐車場及び大型車両駐車場等の貸出しにより収入の確保に努めた。

なお、月極駐車場については、管理経費等の高騰を踏まえ、令和5年4月1日より料金改定を行った。

また、一般駐車場自動精算機のレシートについては、令和5年10月1日から始まったインボイス制度に対応した内容に変更した。

3 青森県観光物産館テナント事業

青森県産にこだわった特色ある土産品店（6店舗）や飲食店（3店舗）の営業に加えて、新たに令和6年1月より14階に飲食店「うみとひかり」が開店した。

また、館内テナントとの連携組織である「アスパムしんこう会（テナント会）」において、アスパム主催イベントとの連携企画や外国人観光客おもてなし研修の受講など、アスパムへの誘客促進や来館者の購買意欲・満足度向上のための各種取組を実施した。

4 旅行業運営事業

県内観光地を貸切タクシーで巡るプランや工芸品の製作体験プランを旅行商品として造成し、インターネットで販売するとともに、青森ねぶたの海上運行・花火大会をアスパムから鑑賞できる旅行商品を旅行エージェント向けに造成し、販売した。

◆造成商品数 31 商品



【ねぶた鑑賞プラン】



【棟方志功の技法裏彩色体験】

令和5年度 青森県観光物産館アスパム 利用状況

[令和5年4月～令和6年3月]

単位：人・千円（税込）・%

区分	元年度	4年度	5年度	増減		備考
				5年度－4年度	5年度/4年度	
総利用者数 (人)	1,277,409	982,806	1,275,456	292,650	130%	新型コロナウイルス感染症の5類移行等による旅行マインドの上昇や、クルーズ船寄港の回復、青森ねぶた祭のフル開催やクリスマスマーケットなどの祭り・イベント等の本格開催等により、利用者数も好調に推移した。 元年度比較では99.8%（△1,953人）となった。
有料 入館者数 (人)	65,521	51,801	78,152	26,351	151%	来館者増加に伴い、有料観覧者数も増加した。クレジットカードやスマホ決済などが使用できる券売機も本格導入し、観覧券が購入しやすいよう利便性向上を図った。
観覧料収入 (千円)	29,220	25,181	35,691	10,510	142%	元年度比較では、人数は119%（+12,631人）、金額は122%（+6,471千円）となった。
物販・飲食店 総売上 ※直営店 含む (千円)	905,908	867,947	1,125,597	257,650	130%	新型コロナウイルス感染症の5類移行等による旅行マインドの上昇や、クルーズ船寄港の回復、青森ねぶた祭のフル開催やクリスマスマーケットなどの祭り・イベント等の本格開催等により、利用額は好調に推移した。
直営店 「青森県地場 セレクト」 売上 (千円)	53,642	47,948	61,477	13,529	128%	元年度比較では、物販・飲食店総売上は124%（+219,689千円）、直営店売上は114%（+7,835千円）となった。
会議室収入 (千円)	43,911	41,307	46,296	4,989	112%	新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に2類相当から5類相当へと移行したことにより、会議室の利用も増加傾向となり、4月から3月の累計では、112%と対前年を上回った。
駐車場 全体収入 ※月極等含む (千円)	55,506	47,411	55,838	8,427	118%	①一般駐車場収入は、会議室利用の回復に伴い前年比116%（4,265千円）となった。 ②月極では、9月に9台の新規契約があり前年比111%（1,446千円）となった。 ③夜間一泊駐車等の後納では、市内での大会等の開催減少に伴うバス利用減により前年比121%（1,216千円）となり、4月から3月の全体（①+②+③）では、118%（8,427千円）となった。